

クリーンエネルギーの中で最も商業化に近々と目される風力発電。それでは、世界で最も風力発電設備が導入されている国はどこか？ 存じだろうか。速報値によれば、2010年は中国がアメリカを抜いて世界最大の風力発電導入国となった見通しである。

中国の導入量は44ギワット程度で世界シェアは23%、2013年には中国の世界シェアは32%にまで上昇するという予測もある。世界の風車の3分の1が中国で回るようになるのである。

驚くべきは発展のスピードである。2005年の導入量はわずか1ギワットあまりで世界シェアは2%に過ぎなかった。5年で40倍以上に成長し、世界シェアも急上昇している。中国ではここ数年で急速に環境ビジネスが湧き上がってきていることの一

### 堀井 伸浩

九州大学大学院経済学研究院准教授



## 環境ビジネスで中国進出を

ヤンスが巨大であるとも言える。世界最高水準まで対策が行きついている日本国内の需要はたかが知れている。巨大な中国市場でシェアを確保すれば大幅に規模の経済性が働き、世界で戦える競争力を得ることができ

る。2006年から2010年までの第11次五カ年計画期間中には、風力発電以外にもさまざまな環境技術の普及が進んだ。そのひとつが発電所に導入された排ガス処理設備、排煙脱硫装置であり、わずか5年で日本の総発電設備容量の2倍近くに相当する莫大な量の排煙脱硫装置が

は価格競争力の欠如である。日本は国内の環境規制があまりに厳しいがゆえに、対策技術も極めて高い水準のものとなっているが、その分価格が高い。中国で導入された排煙脱硫装置の多くは、欧米企業の技術を中心として、中国メーカーが市場ニーズに合った形で改造し、大幅な（なんと

今年から始まる第12次五カ年計画でも中国は省エネルギー・環境対策を引き続き強化していく方針を堅持している。ビジネスの規模の大きさに加え、改めて中国市場の戦略的重要性を確認し、日本の成長戦略の中に、中国市場攻略の方策を入れこんでいくべきである。

例である。わが国は省エネルギー・環境を今後の成長分野としているが、その成否は中国市場でどの程度シェアを取れるかにかかっている。中国の環境汚染が依然深刻な水準であることは確かである。しかし逆に深刻であるからこそ、伸びしろのビジネスチャンスも事実である。

中国はもはや環境汚染大国でなく、環境市場大国へ急速に転換しているという点をわが国の企業、政府はより深く認識する必要がある。もっとも現状では、日本の環境技術は必ずしも中国市場で競争力を持たないケースが多いの

導入された。この排煙脱硫装置については技術的には日本は世界最先端であり、高い競争力を持っているはずであった。しかし実際には、日本の技術をベースにした装置のシェアは全体の1割程度に止まる残念な結果に終わった。技術的に優れた日本のシェアが低迷した原因

8割の)コストダウンに成功した製品であった。日本市場の製品、部品をそのまま持ち込んだ日本企業は、中国メーカーの製品とは価格競争で到底太刀打ちできない結果となった。カギとなるのは中国メーカーの並外れたコストダウン能力の活用である。知的所有権侵害の問題があり、日本企業は中国メーカーとの協働に踏み切れないケースが多いが、欧米企業はビジネスモデルの工夫で利益確保に成功している。

九州・山口の識者の主張を毎週水曜日に掲載します